

お薬手帳を活用した骨粗鬆症治療薬の服薬継続率向上を目指した取り組みの有効性に関する調査 ～福岡Boneアーバンモデル～ 最終報告

○野口 時恵¹、汐待 加織¹、國武 さくら²、林田 諭¹、古賀 友一郎¹、原口 恵子¹、
平川 良宏¹、小林 大介²、川尻 雄大²、島添 隆雄^{1,3}、木原 太郎¹

- 一般社団法人 福岡市薬剤師会 生涯学習委員会
- 九州大学大学院 薬学研究院 臨床育薬学分野
- NPO法人 日本食育協会 理事

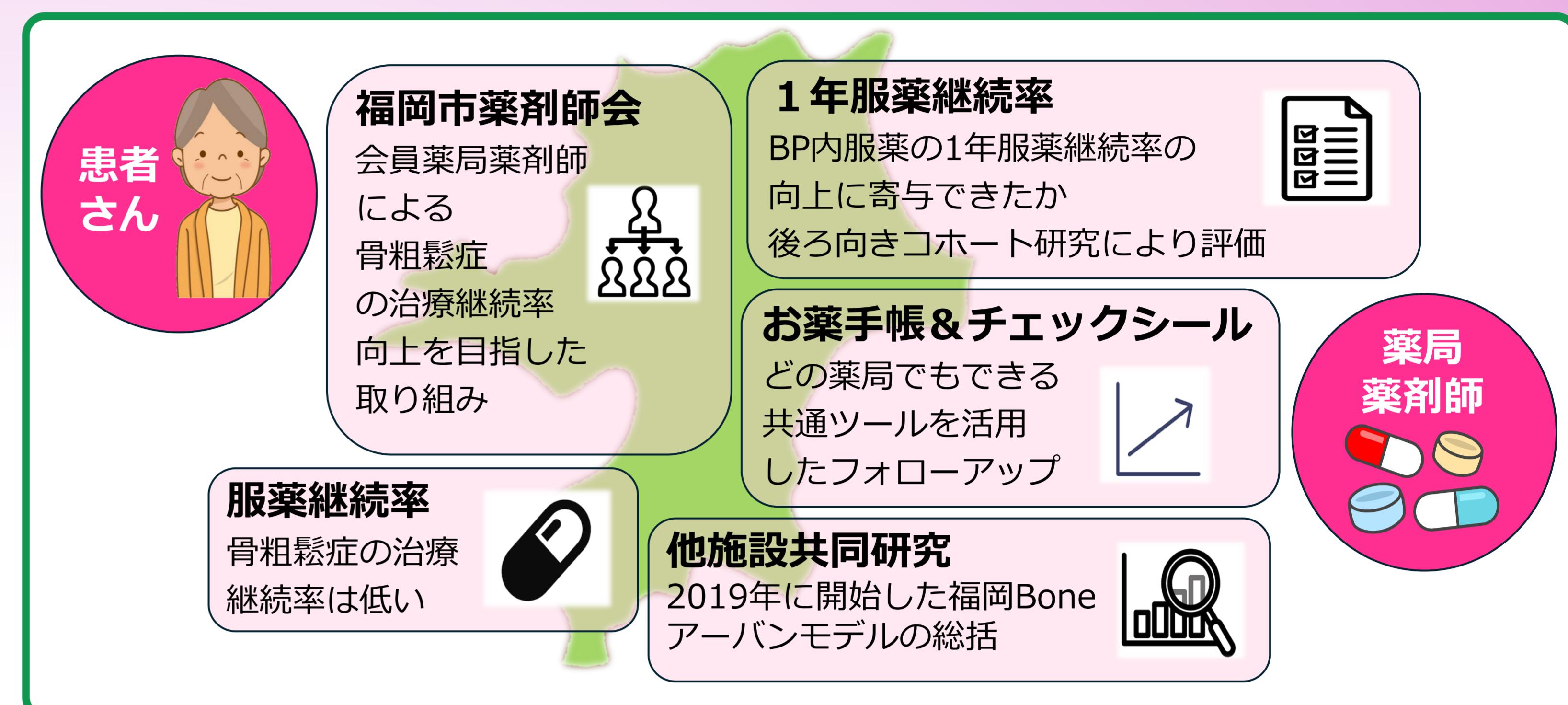


背景

骨粗鬆症の薬物治療継続率は、開始後1年で半数程度に低下するという報告もあり、アドヒアランスに関して問題点が多い。特に、ビスホスホネート（BP）内服薬は、服薬タイミングなど服薬上の注意点が多く、服薬継続率は高いとはいえない。

一般社団法人福岡市薬剤師会では、薬局薬剤師も骨粗鬆症の薬物治療継続率の向上に寄与したいとの思いから、骨粗鬆症の治療継続率向上を目指してワーキンググループを立ち上げ、会員薬局において、お薬手帳とチェックシールを活用した服薬指導を行う取り組みを実施し、1年服薬継続率の向上に寄与できたかを評価した。これまでに、本研究の概要およびその成果の一部について複数の学会で発表してきたが、今回は本研究の総括として報告する。

日々の課題 → 福岡市薬剤師会独自に 研究 & フォローアップ



調査

対象期間	2019年10月1日～2021年7月31日
データ収集期間	2019年10月1日～2022年7月31日
調査内容	会員薬局にて実施したお薬手帳とチェックシールを活用した服薬指導

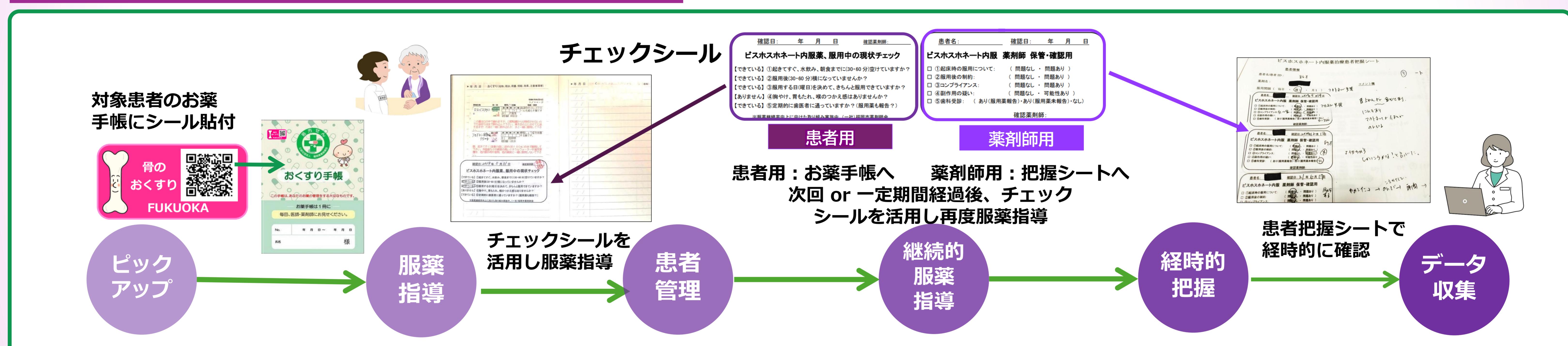
対象

対象患者	対象期間内にBP内服薬が処方された患者
実施群	お薬手帳とチェックシールを活用した服薬指導を行った患者
非実施群	実施群で行った服薬指導を行っていない患者

評価項目

主要評価項目	BP内服薬の1年服薬継続率
副次評価項目	年齢、性別、骨粗鬆症治療歴、骨折歴、併用薬数、BP内服薬の服用間隔
倫理審査	本研究は福岡県薬剤師会学術倫理審査会の承認を得て実施（承認番号：2021-004）

～福岡Boneアーバンモデル～ 研究の流れ



結果1: 患者背景 および BP内服薬の1年継続率

実施群・非実施群間の患者背景に、大きな差はなかった	チェックシールを使用した服薬指導		p値
	実施群 n = 73	非実施群 n = 151	
年齢(歳)	79.1 ± 10.0	81.1 ± 10.6	0.0597
性別(%)	男性 6 (8.2) 女性 67 (91.8)	13 (8.6) 138 (91.4)	1.0000
骨粗鬆症治療歴(%)	< 1年 2 (2.7) 1 - 4年 16 (21.9) ≥ 5年・不明 55 (75.3)	4 (2.6) 39 (25.8) 108 (71.5)	0.8727
骨折歴(%)	あり 21 (28.8) なし・不明 52 (71.2)	70 (46.4) 81 (53.6)	0.0137
併用薬数(%)	6剤以上 8 (11.0) 6剤未満・不明 65 (89.0)	12 (7.9) 139 (92.1)	0.4621
服用間隔(%)	月1回 30 (41.1) 週1回 40 (54.8) 連日 3 (4.1)	91 (60.3) 60 (39.7) 0 (0.0)	0.0018
1年服用継続率(%)	できた 66 (90.4) できなかった 7 (9.6)	119 (78.8) 32 (21.2)	0.0382

実施群では 非実施群と比較して BP内服薬の1年服薬継続が達成できなかった割合は半分以下であった

結果2: チェックシールを活用した服薬指導とBP内服薬の1年服薬継続との関連

実施の有無(%)	お薬手帳とチェックシールを活用した服薬指導を行った取り組みがBP内服薬の1年服薬継続率の向上に繋がった		p値
	実施群	非実施群	
年齢(歳)	80.2 ± 10.9	81.9 ± 8.1	0.4616
性別(%)	男性 11 (57.9) 女性 174 (84.9)	8 (42.1) 31 (15.1)	0.0074*
骨粗鬆症治療歴(%)	< 1年 5 (83.3) 1 - 4年 49 (89.1) ≥ 5年・不明 131 (80.4)	1 (16.7) 6 (10.9) 32 (19.6)	0.2875
骨折歴(%)	あり 70 (76.9) なし・不明 115 (86.5)	21 (23.1) 18 (13.5)	0.0740
併用薬数(%)	6剤以上 17 (85.0) 6剤未満・不明 168 (82.4)	3 (15.0) 36 (17.7)	1
服用間隔(%)	月1回 98 (81.0) 週1回 84 (84.0) 連日 3 (100.0)	23 (19.0) 16 (16.0) 0 (0.0)	0.7745

1年服薬継続率は
男性と比較し
女性において
有意に高かった

骨粗鬆症治療歴・骨折歴・併用薬数・
BP内服薬の服用間隔においては
実施群・非実施群間で有意な差はなかった

考察

*お薬手帳とチェックシールを活用した取り組みが、BP内服薬の1年服薬継続率の向上に繋がった。特に女性において有意に高かった。

*研究期間途中、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う緊急事態宣言の実施もあったが、それでも、薬局薬剤師による服薬後フォローアップにより、概ね90%と、比較的高い1年服薬継続率の達成が実現できた意義は大きいと考えられた。

*薬局薬剤師も、骨粗鬆症治療薬の適正使用・服薬継続・フォローアップを通して地域へ貢献することは、重要な行動目標である。